



学校訪問研修会がありました

9月5日（火）は、年に一度、西部教育事務所や南砺市教育委員会、南砺市教育センターの先生方に来校いただき、学校運営の状況について、ご指導をいただく学校訪問研修会でした。その他、学校評議員や中学校の先生方にも、学校の様子を見ていただきました。どの学級の子供たちも、落ち着いて授業に臨んでいました。「自分のことは自分が一番分かっているつもりですが、実は一番分からないもの」とよく言います。時には、第三者の目で学校の様子を見ていただくことで、本校が当たり前に思っていることの中に、本校のよさがあったり注意すべき点が見付かったりします。そういう意味で有意義な研修会でした。以下は、指導の先生との会話の中で、子供たちのことについて言われたことと、私の思いです。



① 「外で遊ぶ子が多いですね」

「外で遊ぶ子が多いですね」と言われて、私は「やっぱりそうか!」と思いました。これは、私が本校に勤務し始めたときから思っていたことです。朝も、長休みも、昼休みも、いつもグラウンドやコロコロ山には、子供たちが元気に走り回っています。

「これまでの学校では、こんなに外で遊んでいたかな?児童数が多いから、外で遊んでいる子が多いと感じるだけかな?」とずっと思っていたのですが、いろんな学校を見て回っている先生がおっしゃるのだから、間違いないと確信できました。ただ、その日もそうだったのですが、「雨が降っていても外へ出ていく」

「濡れるから校舎内に入りなさいと言ったら、傘をさして出ていく」
……。元気でよいのですが、これはやめてほしいなと思います。



② 「挨拶をよくしますね」

挨拶のことは、これまでの校長だよりでも幾度か書きましたが、毎朝玄関前に立っていて「挨拶をする子が増えてきた」「挨拶の声が大きくなってきた」と感じます。児童会の取組や教員たちの働きかけのお陰です。全員が大きい声で挨拶をしているかという、まだまだですが、自分の小学校時代を考えると「こんなものかな」とも思います。また、挨拶をする子供側の問題だけでなく、挨拶をされる側の問題もあると思います。誰でもそうですが、知らない人や嫌な人には、声をかけたり挨拶をしたりしたいとは思わないものです。昨年、本校に勤務し始めた頃の私は、子供たちにとって、「どんな性格なのか」「挨拶をしたら挨拶を返してくれるのか」も分からない、言わば「知らない人」であったと思います。それが時間の経過とともに、子供たちとの距離が縮まり、挨拶を交わし合える関係になってきたのかもしれない。挨拶することが

目的でなく、よい人間関係を築くことが目的で、挨拶は、その手段であると考えていきたいものです。

③「放送が鳴ったら、立ち止まって、しっかり話を聞きますね」

最近、毎日、長休みと昼休みの前に、熱中症情報と注意喚起の放送を流しています。放送が流れたときに、ちょうど指導の先生方が子供たちの様子を見ておられたようで、「子供たちはピタッと話をやめて、立ち止まって、静かに放送を聞いていた」と感心しておられました。同じことを、9月の始めにスクールカウンセラーの先生から聞きました。本校のよい伝統でしょうか、何か災害等があったときには、まず情報収集が必要です。この習慣は、今後も大切にしていきたいと思います。

④「鉛筆の持ち方が気になります」

改善すべき点についても言っていました。鉛筆の持ち方（箸の持ち方）は確かに気になります。大人でも気になることがあります。お子さんは大丈夫でしょうか。正しく鉛筆を持つことで、「正しい字が書ける」「疲れにくい」等の利点があります。子供のうちに身に付いた習慣は、大きくなってからはなかなか変えられません。学校でも指導しますが、ご家庭でも声をかけてあげてください。

南砺市芸術鑑賞会が行われました

9月7日（木）、井波総合文化センターにおいて、南砺市芸術鑑賞会が行われ、南砺市内の小学4年生約340名が集まりました。鑑賞したのは、劇団歌舞人による『シンドバッドの冒険』で、プロジェクションマッピングを使ったミュージカル風の演劇でした。劇が始まる前に、子



供たちに「シンドバッドの話は何となく知っているよね？」と聞いてみたら、多くの子供が「知らない」「聞いたこともない」と言いました。これには驚きました。劇が始まると、子供たちは目を丸くして見入っていました。次々に登場人物が変わるのですが、何と！たった6名の役者で舞台を回しているということにも驚きました。もうすぐ学習発表会があります。役者の皆さんが「どんな表情で」「どんな声で」「どんな動きで」自分を表現しているかを参考にしてくれると嬉しいです。

私は、用事があったので、前半の途中で退席したのですが、シンドバッドの台詞の中に「**海の向こうには何があるのだろう。広い世界を見てみたい**」「**冒険には危険がつきもの。今の生活にも、それなりに満足している。あえて冒険に出なくても…**」「**冒険に出れば、この世で見たこともない財宝が見つかるかもしれない**」等、冒険に対する期待と不安、それに対する葛藤が描かれていました。子供たちは、どのように感じたのか分かりませんが、「何か新しいことに挑戦するときには不安はつきものだけど、それを乗り越えて、やり抜いた後には、新しい発見や喜びがあるのだよ」というメッセージがあったように私は感じました。

学校に帰ってきた子供たちに感想を聞いてみると、「面白かった」「かっこよかった」と言っていたので、得るものもたくさんあったものと思います。

（校長 曲師政隆）